

1. 仏教の日本化が平安仏教以上に深化して生まれた、念仏系・禅系・日蓮宗といった新興諸宗派の総称。選択（せんちゃく 一つの宗派を選ぶ）・易行（実践が容易）・専修（せんじゅ 一つの易行に専念）が特徴。ただし、その発展は室町中期から戦国期。 1
2. 平安末期の終末観。正法（しょうぼう）・像法（ぞうぼう）の後、現世での救済はない（来世＝浄土での救済のみ）とする。 2
3. 阿弥陀仏を信じることで、来世は極楽浄土に往生できるとする教え。 3
4. 阿弥陀仏の本願（衆生くしゅじょう>救済の誓い）を信じて、称名（しょうみょう）する念仏。語義：「阿弥陀仏に帰依します」 4
5. **PERSON** 平安中期の僧。諸国遊行（ゆぎょう）で庶民に布教し、京で貧民の世話をした「市聖（いちのひじり）」。口から念仏の空也像で有名。 5
6. **PERSON** 平安後期の天台宗から出た僧。「厭離穢土（おんりえど）、欣求（ごんぐ）浄土」（現世をけがれたものとして否定し、極楽浄土に往生することを願う）。 6
7. **BOOK** 浄土に往生するための教えの要点を多くの経典から集めた源信の著書。極楽と地獄の描写は絵巻にもなった。 7
8. **PERSON** 鎌倉初期の天台宗から出た僧で、浄土宗の開祖。 8
9. 「凡夫（ぼんぷ）の行は念仏のみ」として、貴族的だった浄土教を庶民的なものにした法然の教え。 9
10. 実践の容易な易行こそが末法の世にふさわしいとした法然の教え。 10
11. **PERSON** 鎌倉前期の天台宗から出た僧で、浄土真宗（一向宗）の開祖。 11
12. **BOOK** 他宗派からの念仏批判に答えた親鸞の主著。全六巻の最初の四巻の名前「教」「行」「信」「証」から。 12
13. **BOOK** 親鸞の弟子唯円の著書。師の教えと異なる内容が説かれていることを嘆（歎）いて書かれた。親鸞の語録や悪人正機について。 13
14. 善人（自力で功德<くどく>を積める人）よりも、悪人（他力に頼るしかない「煩惱具足の凡夫」を自覚する人）こそが救いの対象。救いは人間の努力よりも、阿弥陀仏の誓い（本願）によるものだから。 14
15. 師の法然による他力を親鸞が徹底させた立場。 15
16. **PERSON** 鎌倉中期の天台宗から出た僧で、時宗の開祖。踊り念仏で全国を遊行し、「遊行上人（ゆぎょうしょうにん）」「捨聖（すてひじり）」（阿弥陀仏の算<ふだ>を捨てるように配ったことから）。 16
17. **PERSON** 平安末期から鎌倉初期の天台宗から出た僧で、臨済宗の開祖。鎌倉五山・京都五山が本山 17
18. **BOOK** 他宗派からの禅宗非難に答えた栄西の主著。禅を通して人材を養成することで禅宗が鎮護国家に役立つと主張。 18
19. 栄西が『興禅護国論』中で述べた四つの禅の精神。それぞれ「言葉でなく」・「経典によらず」・「修行や体験によって」・「仏になる」の意味。 19
20. **PERSON** 鎌倉前期の天台宗から出た僧で、曹洞宗の開祖。永平寺（越前<今の福井県>）と総持寺（鶴見<今の神奈川県>）が本山。 20
21. **BOOK** 道元の主著で、末法思想の否定や只管打坐による身心脱落（しんじんだつらく）の境地などが内容。 21
22. 自分の仏性を確信して、自己努力により悟りを開こうとする立場。道元の只管打坐（しかんたざ）の禅が代表。 22
23. 全ての執着をなくせば、自分の仏性が実現し悟れるとする道元の教え。 23
24. 念仏や経典を読むことを排して、「ただひたすら座禅にうちこむ」。 24
25. 修（座禅）は単なる方便（手段）ではなく、そのまま証（悟り）そのものであるとする道元の教え。 25

T. Q. 「浄土教と浄土宗と浄土真宗の関係とは？」

T. A.

浄土教は阿弥陀仏の本願を信じて称名念仏（南無阿弥陀仏と唱える）する信仰である。法然がそれを民衆向けに改めた浄土宗では、凡夫の行は念仏のみとする専修念仏を説いた。また、親鸞の開いた浄土真宗は浄土宗と異なり、弥陀の本願をひたすら信仰するという絶対他力を説いた。